

平成26年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT26207

大村先生の”自分の香りと出会う”講座—集中力を高め、リラックスする香りを発見してみよう！—



開催日：平成26年8月7日(木)

実施機関：阪南大学本キャンパス411教室  
(実施場所) 神戸布引ハーブ園

実施代表者：大村 邦年(流通学部・教授)  
(所属・職名)

受講生：小学生31名  
中学生14名

関連URL：<http://www.hannan-u.ac.jp/lifelong/mrrf430000011qzt.html>

【実施内容】

◆本プログラムのねらいと工夫

本プログラムは、次の①②③の3部構成を通じて、「香り」の基礎知識・歴史的有用性を学び、自分の「香り」を作ることにより、実践的知識を体得してもらうことをねらいとしている。①講義(古代エジプトから現代までの歴史、ビジネスとの関係性)、②フィールドリサーチ(神戸布引ハーブ園：香りの材料となる植物観察)、③香りづくり体験(理科実験要素あり)。①では、なるべく分かりやすい事例を挙げながら、「香り」とは何か、「香り」の歴史、ヒトに与える効能や「香り」とビジネスにおけるシナジー効果などを解説し、「香り」の具体的なイメージが浮かぶように工夫した。②では、ミントガーデン、セージ園、ラベンダー園など主要ポイントを植物学の専門家に説明を受けながら観察し、実際に「見て・触って・嗅いで」という体験により、自然の恵みである植物と「香り」とがいかに関係が深いかを理解してもらった。プログラムの後半である③では、受講生自ら「香り」のテーマを設定してもらい、その「香り」を具現化させる体験をしてもらった。具体的には、有資格の専門インストラクター指導の下、理科実験の要素をも取り入れながらルームスプレーの「香り」づくりをおこなった。プログラム全体は、「香り」をとおして、受講生が「見えないモノ」から「見えるモノ」への知的創造性を具現化させる体験学習の要素で構成し、最終的にものづくりに対する世界観を広げることが出来るように工夫した。

◆当日のスケジュール

9:30～10:00 受付  
10:00～10:15 開講式(プログラム全体の趣旨説明、科研費の説明・諸注意)  
10:15～10:40 講義「香りの歴史・効果・ビジネスとの関係」(講師：大村邦年)  
10:50～12:10 移動(神戸布引ハーブ園へ) 80分  
12:20～12:50 昼食・休憩  
12:50～14:10 フィールドリサーチ(植物観察を中心に) 80分  
14:20～15:40 移動(阪南大学本キャンパスへ) 80分  
15:40～16:40 実習「自分の香り(ルームスプレー)」づくり 60分  
16:40～17:10 発表会「自分の香り」 30分  
17:10～17:30 修了式(アンケート記入、「香り博士号」授与)  
17:30 終了・解散



香りのストーリーテラーによる講義



ロープウェイで山頂まで



ハーブ園での香育体験①



ハーブ園での香育体験②



布引ハーブ園での集合写真



ルームスプレー作り体験①



ルームスプレー作り体験②



修了証授与式の一コマ

#### ◆事務局との協力体制

本プログラムの実施にあたり、①委託費の管理、②学振への連絡調整及び提出書類の確認等の事務手続き、③広報活動等、受講生募集に関する手続きについておこなった。まず、①については、実施担当部局(研究助成課)が専用の帳簿を備え、支出入の額を記載し、その内容を明らかにした。使途に関しては、本プログラムを実施するために適切に執行し、財務部財務課がその管理をおこなった。②については、実施担当部局が学振との連絡調整をおこない、遺漏のないよう提出書類等の事務手続きをおこなった。③については、以下の広報活動に記載する。

#### ◆広報活動

実施担当者と実施担当部局(研究助成課)が広報担当部局と連携して、大学の広報誌、ホームページに募集案内を掲載した。また、近隣の小学校・中学校やそれ以外の学校に対してもリーフレットを配布した。また、タウン誌や市役所の広報誌に掲載し、広く一般に科研費の研究成果がいかに活かされているかを周知した。

#### ◆安全配置

1. 学内での移動が伴う場合やハサミ等を使う場合は、教職員はじめスタッフが終始付き添い安全に十分配慮した。2. プログラム時間内(開始から解散まで)においては傷害保険に加入し、実施協力者(学部生)については、大学加入の保険を適用した。3. 夏期に行う講座の為、熱中症による体調不良や弁当のノロウイルス等に十分配慮し、飲料水の配布や空調設備のある部屋での昼食を行い、学内では消毒液を配置し、感染予防対策を徹底した。4. 実施教室の冷房の設定温度に注意を払うとともに、十分な休憩時間を入れることにより、受講生の体調管理に配慮した。5. 突発的な地震に備え、非常口等の避難経路を事前に確認するとともに、実施日に避難経路等についてアナウンスをおこなった。

#### ◆今後の発展性、課題

本プログラムは実施代表者の研究課題であるファッションビジネスに関する成果とその関連する「香り」という分かりやすいテーマをキーワードとして企画した。広報活動も本学近隣地域へ集中的におこなった結果、定員40名に対して、募集開始2週目にして申し込みが54名となり、最終的に受講生を45名(小学生31名、中学生14名:男子15名、女子30名)に増員することになった。プログラム終了後のアンケート調査から、①プログラムに興味があったから参加した60%、②また参加したい96%、③プログラム内容が分かりやすかった96%、④科学に興味があった93%、と受講生の評価が非常に高いことが分かった。今後さらに研究成果とニーズに合致した分かりやすいテーマの組み合わせ精度を上げることにより、大きな発展性が期待できると考えられる。課題としては、バス移動と園内フィールドワークの時間配分などスケジュールリングの精査の必要性があげられる。

【実施分担者】           0名          

【実施協力者】           6名          

【事務担当者】 戀川 照義 研究助成課・係長